

March 9, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、続落 コロナウイルス感染拡大で世界景気の後退を懸念**

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は105.39円と前営業日NY終値(106.16円)と比べて77銭程度のドル安水準だった。新型コロナウイルスの感染拡大で世界景気の後退懸念が高まる中、欧州時間に一時104.99円と昨年8月26日以来約半年ぶりの安値を付けた。市場では「米連邦準備理事会(FRB)が4月末までに政策金利をゼロ近辺まで引き下げるとの見方が強まっている」との声が聞かれた。

ただ、NY市場に限れば105円台前半から半ばでのみ合いに終始した。ダウ平均が一時900ドル近く下落したほか、ナイト・セッションの日経平均先物が大証終値比500円安の2万0210円まで売られたことなどが相場の重しとなった半面、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「新型肺炎対策を絞った景気刺激策を講じる可能性」などと発言したことが相場を支えた。一時は0.6572%まで低下し過去最低を更新した米10年債利回りが0.79%台まで低下幅を縮めたこともドルの下支え要因となった。

ユーロドルは続伸。終値は1.1284ドルと前営業日NY終値(1.1237ドル)と比べて0.0047ドル程度のユーロ高水準だった。米10年債利回りが過去最低を更新する中、ユーロ買い・ドル売りが優勢となり一時1.1355ドルと昨年7月1日以来の高値を付けた。ただ、クドロー米NEC委員長が景気刺激策の可能性に言及すると米国株や米金利が低下幅を縮小したため、ドルを買い戻す動きが広がり取引終了間際に1.1284ドル付近まで伸び悩む場面があった。

なお、米労働省が発表した2月米雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月比27万3000人増と予想の前月比17万5000人増を上回り、失業率は3.5%と予想の3.6%より強い内容となったものの、リスク・オフ一色の市場への影響は限定的だった。市場では「大事なのは新型肺炎の影響を織り込む3月の数字」との声が聞かれた。

ユーロ円は続落。終値は118.92円と前営業日NY終値(119.31円)と比べて39銭程度のユーロ安水準。欧州市場では、欧州株相場の急落を受けてリスク回避目的の円買い・ユーロ売り優勢となり一時118.71円と日通し安値を付けたが、NY市場ではユーロドルの上昇につれた買いが優勢となり一時119.42円と日通し高値を付ける場面があった。

**【本日の東京為替見通し】世界的協調の終焉、リスクオフの動きは継続**

本日の東京市場のドル円は引き続き上値は限定的か。早朝にドル円は2016年11月以来となる104.15円まで下落して始まっている。週末の報道をまとめてみてもリスクオフにならざるをえないような、暗いニュースばかりが報じられている。イタリア政府は、新型コロナウイルスの感染者数が多い北部のロンバルディア州全域と複数の自治体を、4月3日まで隔離すると発表している。米国もワシントン州、カリフォルニア州に続き経済の大動脈ともいえるニューヨーク州を含む複数の州でも非常事態宣言が発令された。他にも各地で新型コロナウイルスによる感染者や死亡者が急増し、その勢いはとどまりそうにない。世界保健機構(WHO)はパンデミック債(CATボンド)絡みの事情でパンデミックと宣言をすることに二の足を踏んでいるが、ウィルスの感染拡大がパンデミックと言わざる終えない状況で、株売り、債券買い、円買い、金買いなどのリスクオフの流れは当面続きそうだ。

新型ウィルスの感染拡大以外で週末に大きなネガティブサプライズとなったのが、サウジアラビアが石油増産に転じるという報道だ。当初は減産を目指していたが、ロシアの反対により減産が合意できないまでの話だったが、減産から一転サウジによる増産ということは市場が予想していなかったことで影響は大きい。すでに朝方のブレント相場は3割以上下落している。

ウィルス感染拡大のような世界規模の緊急事態に対して今までは各国が協調し、石油輸出国機構(OPEC)及びロシアなどの産油国が一致団結してきたが、超大国が協調姿勢を一切見せなくなったことで歯止めが掛からなくなっている。この流れは石油などに限ったことでなくG7なども、今までのトランプ米大統領の横暴に対して他国が一致団結するような雰囲気もないことで歯止めが利かない可能性もあるだろう。特にドル安を望んでいるトランプ大統領がドル買いの協調介入などには消極的なことも、為替市場にとってはドル売りに歯止めが掛からない要因となりそうだ。

上記のようにリスクオフの流れは続きそうだが、円売りの要素も依然として残っている。一番警戒しなくてはならないのは日本の感染者数が他国と比較し、明らかに発表が遅くなっていることだ。ここ最近急速にPCR検査数が増えているものの、昨日正午の段階で検査事例はチャーター便帰国者を除き7347件

しかない。今後は検査がより拡大することで感染者の数値が増大する可能性が高い。感染者数が明らかになった時に日本売り（円売り、日経売り）などになることもあることには警戒したい。

ドル円以外も、原油価格に影響を受けるカナダドル、避難通貨としてのスイスフランなど様々な通貨も大きく動く可能性が高いので要注意となりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:50 ◎ 1月国際収支速報
  - ◇ 経常収支（予想：季節調整前 6235 億円の黒字／季節調整済 1 兆 6641 億円の黒字）
  - ◎ 貿易収支（予想：9620 億円の赤字）
- 08:50 ☆ 10-12 月期実質国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比▲1.7%／前期比年率▲6.6%）
- 14:00 ◇ 2月景気ウォッチャー調査（予想：現状判断指数 35.7／先行き判断指数 37.5）

### <海外>

- 15:45 ◇ 2月スイス失業率（季節調整前、予想：2.6%）
- 16:00 ◇ 1月独貿易収支（予想：150 億ユーロの黒字）
- 16:00 ◇ 1月独経常収支
- 16:00 ◎ 1月独鉱工業生産（予想：前月比 1.7%／前年同月比▲3.8%）
- 21:00 ◎ 2月メキシコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.28%）
- 21:15 ◇ 2月カナダ住宅着工件数（予想：20.65 万件）
- 21:30 ◇ 1月カナダ住宅建設許可件数（予想：前月比▲3.0%）
- ロシア（国際婦人デーの振替休日）、休場
- 米国は 8 日から夏時間に移行済み

10 日

### <国内>

- 08:50 ◇ 2月マネーストック M2

### <海外>

- 06:45 ◇ 10-12 月期ニュージーランド（NZ）製造業売上高
- 09:01 ◇ 2月英小売連合（BRC）小売売上高調査
- 09:30 ◇ 2月豪 NAB 企業景況感指数
- 10:00 ◎ オア・ニュージーランド準備銀行（RBNZ）総裁、講演
- 10:30 ◎ 2月中国 CPI
- 10:30 ◎ 2月中国生産者物価指数（PPI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

6日 07:43 カプラン米ダラス連銀総裁

「ウイルスの拡散で見通しに対するリスクが高まった」  
 「FRBの行動がすばやい回復の可能性を高めるだろう」  
 「大幅な景気減速や金融ひっ迫があれば、緩和的な政策を支援」  
 「各国・地域中銀はそれぞれ異なった行動をとる」  
 「手段が限られているならば、より早く大胆に行動するのが賢明」

6日 10:07 モリソン豪首相

「新型コロナウイルスによる医療関連コストは10億豪ドルに達する可能性も」

6日 10:24 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

「先日の緊急利下げで保険に加入した」  
 「新型コロナウイルスは企業活動や消費者に対して不確実性を高めている」  
 「新型コロナウイルスの影響がいつまで続くかは不明」

6日 10:49 ウィリアムズ米NY連銀総裁

「3日の利下げで景気拡大を後押しする」  
 「金融当局は政策手段を用いて適切に行動する」  
 「見通しは変化しており、不確実性が非常に高い」  
 「新型コロナウイルスを注意深く監視し、適切に行動する」

6日 11:52 アジア開発銀行

「20年中国成長率、新型コロナウイルスの影響で0.3-1.7%押し下げられる可能性」

6日 19:43 ロシア高官

「既存の(石油)減産延長は同意、新たに削減量は増やさない」

6日 19:58 エルドアン・トルコ大統領

「ミツオタキス・ギリシア首相との会談は拒否した」

6日 21:36 ブラード米セントルイス連銀総裁

「市場は最悪なケースを織り込もうとしている」  
 「我々は皆新型コロナウイルスの影響を判断するのに苦労している」  
 「市場のボラティリティには驚かない」

7日 03:03

「2月米雇用統計は経済が良好な状態であることを示唆」  
 「米国は当面の間、減速するだろう」  
 「中国よりはかなり自信がある」  
 「新型コロナウイルスを制御できれば、今年初めの非常に強い経済にすべてが戻るだろう」  
 「金融政策を目先の課題に集中させ続ける」

6日 23:08 トランプ米大統領

「FRBは追加利下げし、景気を刺激すべき」  
 「FRBは積極的ではない」  
 「金融市場が持ち直すことを期待」

7日 01:02 米格付け会社ムーディーズ

「新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済が年内にリセッションに陥るリスクが増大した」

7日 02:34 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

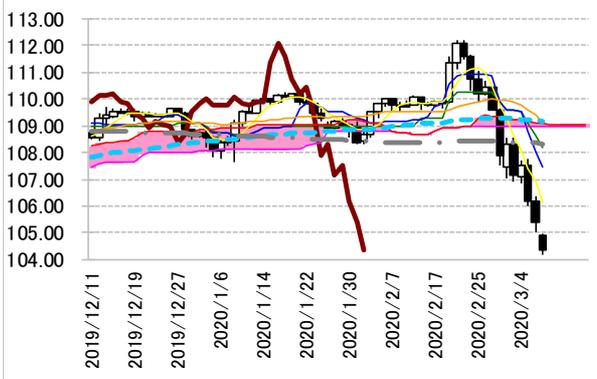
「新型コロナウイルス対策で的を絞った景気刺激策を講じる可能性」

7日 04:03 ローゼングレン米ボストン連銀総裁

「10年利回りがゼロ%に達した場合、FRBはより幅広い資産を購入できる」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

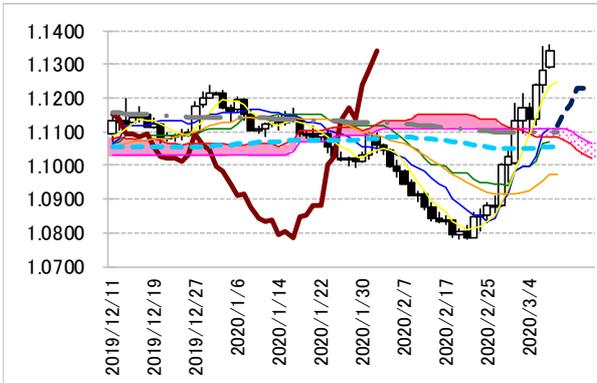


＜ドル円＝下げ止まりめどつけにくく、下値を探る展開が継続＞

下影陰線引け。週明けの下振れで、2016年11月以来の安値を104円割れまで更新した。

チャート上の節目は同時期2016年11月9日の安値101.20円と、かなりかい離れた水準まで見当たらない。2018年からの長い目でみた振幅を参考にした計算値などをめどにせざるを得ないが、下げ止まりのポイントとして確信を持ちにくい。下値を探る展開が当分続きそうだ。

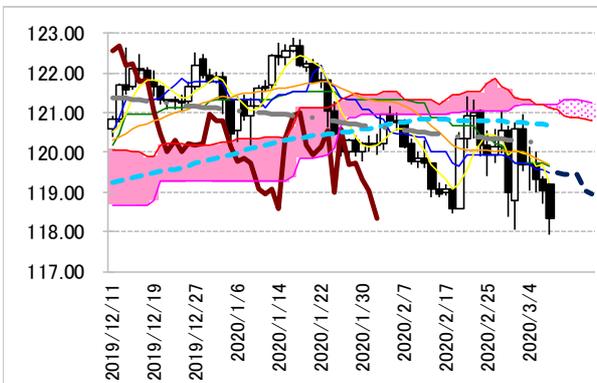
前日終値	105.39
レジスタンス1	104.99(3/6 安値)
サポート1	102.72(2018/10-2019/1 下落幅のN計算値)
サポート2	101.20(2016/11/9 安値)



＜ユーロドル＝支えとなりそうなテクニカル指標からかい離＞

上影陽線引け。昨年6月以来の1.14ドル回復をうかがう展開となっている。ドル売りの受け皿となって底堅いが、下押し局面で支えとなりそうな日足テクニカル指標から大きめに離れていることから、調整の動きが強まった際の反落幅が大きくなる可能性は視野に入れて臨みたい。昨年12月や7月の高値がサポートになることも考えられるが、1.12ドル付近で推移する5日移動平均線や、1.11ドル付近の一目均衡表・転換線付近までの下押しも警戒しておきたい。

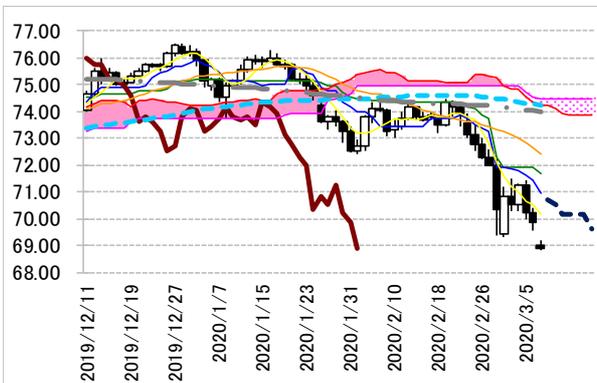
レジスタンス1	1.1448(2019/3/20 高値)
サポート1	1.1286(2019/7/11 高値)
前日終値	1.1284



＜ユーロ円＝5日線や転換線が安値圏での反発を抑制＞

下影陰線引け。2月28日に下げ渋った際の安値118.39円を割り込んできた。下落基調を脱することができない。昨年10月以来の安値まで売り込まれた反動の戻りを期待したいが、119円台で低下中の5日移動平均線や一目均衡表・転換線が反発を抑制しそう。されない推移が継続しそうだ。

前日終値	119.05
レジスタンス1	119.04(3/4 安値)
サポート1	117.58(2019/10/10 安値)



＜豪ドル円＝先週末の安値が抵抗＞

下影陰線引け。2009年4月以来、約11年ぶりの安値水準68円台で推移している。70円台で低下中の5日移動平均線や一目均衡表・転換線が反発局面の抵抗となるほか、先週末の安値水準69.58円付近でも戻り売り圧力にさらされそう。しばらく安値圏で底固めをしなければ、上向きへ転じることはできないだろう。

前日終値	69.88
レジスタンス1	69.58(3/6 安値)
サポート1	67.34(2018/12-2019/1 下落幅のN計算値)

